

バイブルスタディ Pastor JD Farag

2018.10.14

ピリピ人への手紙 1:1 - 6 「幸せにつながる喜び」

ピリピ 1 章 1 節 - 6 節。使徒パウロが聖霊によって書いています。

- 1 キリスト・イエスのしもべである、パウロとテモテから、ピリピにいる、キリスト・イエスにあるすべての聖徒たち、ならびに監督たちと執事たちへ。
- 2 私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたにありますように。
- 3 私は、あなたがたのことを思うたびに、私の神に感謝しています。
- 4 あなたがたすべてのために祈るたびに、いつも喜びをもって祈り、
- 5 あなたがたが最初の日から今日まで、福音を伝えることにともに携わってきたことを感謝しています。
- 6 あなたがたの間で良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださると、私は確信しています。

一緒に祈りましょう。

愛する天のお父様、今日ここで学ぶあなたの御言葉に感謝しきれません。

主よ、あなたによらずには歩めないことも分かっています。

聖霊によって、私たちが集中できるように、集中を保てるように導いて下さい。

主よ、あなたが学ばせたいと思っていることを、私たちが見逃しませんように。

あなたが私たちの人生に、御言葉を通して語って下さることを聞くためにここにいますから。

主よ、今日ここに、大変な苦難の中であって、あなたからの御言葉を切に望んでいる人がたくさんいます。

この素晴らしい書に書いてある喜びのように“喜ぶ”ということについて話しますが、それは近づきがたく、到達できない非現実的なことに思えます。ですから主よ、あなたに祈ります。

あなただけが、御言葉を通して私たちを導くことができるのですから。

イエスの御名によって。アーメン。

今日は、私がクリスチャン人生を送る中で長年格闘し、取り組んできた「幸せになりたい」ということについて、ざっくばらんに、オープンに話したいと思います。

私は幸せに見えますか？

実は“主にある喜び”に関しては、私は信者として、牧師として確実に失格です。

誰よりも先にそのことを認めますよ。

パウロが聖霊によって書いたピリピ書の中に私たちへの答えがあることを期待して、質問します。

「神は、私が幸せになることを望んでおられないのか？」

「私たちは幸せを追い求めるように教えられていないのか？」

「幸せであるべきではないのか？」

では回答したいと思いますが、その前に、幸せと喜びの違いを理解しなければなりません。

これが最も重要なのですが、幸せは、人生が上手くいっている状況と結びついています。

事実、Happiness（幸せ）は Happenstance（思いがけない出来事）という言葉から来ていて、言い換えると、「状況が～なら、幸せでいられる。」

それは、喜びではありません。

喜びは、試練の中でさえ、なお喜ぶことができる、喜びに満たされるという感覚であり、状況に左右されないからです。

様々な試練にあうときはいつでも、この上もない喜びと思いなさい。（ヤコブ 1:2）

困難や危険な状況であっても、喜びを保つことができる。

これが最も大きな違いです。

幸せは不安定で、喜びは安定。

幸せは自分がどう感じるかに基づき、一方、喜びは自分がどう考えるかにある。

幸せは表面的で、喜びは超自然的。

幸せは感情で、喜びは信念、決断。

D.Martin Lloyd Jones 著 “SPIRITUAL DEPRESSION”（霊的うつ病—その原因と治療—）に興味深いことが書かれています。

「あなたは自分を幸せにすることはできないが、自分自身を喜ばせることはできる。

幸せは私たち自身の中にあり、喜びは主の中にある。」

そして、これがカギです。

「幸せは外見的なもので、喜びは内的なものである。」

「幸せは浅薄で、喜びは深い。幸せは反応で、喜びは応答。幸せは不完全で、喜びは完全。」

私はパウロのこの言葉が大好きです。

6 あなたがたの間で良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださる

そこに喜びがあるのです。全き喜び。喜びに満ちる。

「幸せは一時的、喜びは永遠。」

では、この違いを理解した上で、先程の質問に答えていきましょう。

「神は、私が幸せになることを望んでいないのか？ 幸せになって欲しくないのか？」

その答えは「はい」であり「いいえ」です。

理由を説明しましょう。

喜びは幸せよりもずっと良く、喜びが幸せをもたらします。

幸せは必ずしも喜びに繋がらないけど、喜びは絶対に幸せに導きます。

恐らく最も良い回答は、「神は、私が喜びに満たされることを望んでいる。」

イエスは言いました。

わたしの喜びがあなたがたのうちにあり、あなたがたが喜びで満ちあふれるようになるために、わたしはこれらのことをあなたがたに話しました。（ヨハネ 15:11）

敢えて言いますが、喜びを持つこと、全き喜び、それが神の民である私たちへの御心です。

別の言い方をすれば、喜びのないクリスチャンでいることは御心ではない。

神の御心は、私たちが喜んでいてクリスチャンでいることです。

ここが今日の箇所の適用ですが、使徒パウロが模範として聖書から飛び出してきました。

ここにある喜びは、実際にはどのように見えるものなのか。

どんな風に行動するのか。どのようなものなのか。

以前聞いて決して忘れられない言葉は、「喜んでいてクリスチャンは、キリスト教の良き広告塔である。」

実際、これが、ものすごい葛藤の原因です。

私は牧師として、格別、イエス・キリストの良い代表になりたい。

それがまずい事に、牧師としてどころか、クリスチャンとしての人生に喜びも勝利もない。

これが未信者にどんなメッセージを伝えていることか。

だから、未信者の人たちを教会に招待すれば、彼らはクリスチャンを見て「いや、結構です。」と言う。

「なぜなんだ。」と、彼らを咎めることなんてできません。

未信者の人たちはあなたの人生を、歩みを見えています。

「♪あぁ、悲しいかな。誰も知らない♪」

みんな知っている。この歌を思い出さなくてもいいですよ。

こんな言い方をすると無神経に聞こえるかもしれませんが、考えてみて下さい。
人生のあらゆる困難の中で、それにも拘らず喜びがあるなら、イエス・キリストの、キリスト教の良い広告塔になるのです。使徒パウロがそうであったように。
彼は、大変な困難、厳しい人生にも拘らず喜んでいるクリスチャンの優れた模範です。
パウロの人生がどんなに大変だったかを思うには、コリント人への手紙を読めば十分です。
3度も難船し、命がなくなる寸前までむち打たれ、リステラでは石で打たれて死んだものとして放置されました。
ですが彼は、経験したこと全てを名誉の勲章と考えています。
それほど苦難の中にありながら、なおも人生に喜びを持った人、喜んでいてクリスチャンの模範がパウロ、聖書の中では、このピリピ人への手紙です。

パウロがピリピに教会を建て上げたのは約 11 年前です。
彼にはそんな計画はなかったけど、大変興味深いことに、使徒の働きに書いてある通り、神は苦境を設定してパウロの方向を変え、ピリピへ向かわせたのです。
彼は、マケドニアの男が神に「人を送ってほしい」と懇願している幻を見ました。
そこへ行くつもりはなかったのに。
私が、「神が **Redirect** (向け直す、変える)」と言うのは、神は度々、私たちの歩みを案内するからです。
恐らくもっと重要なのは、神は私たちに、立ち止まるように指示する。
神は、パウロをその場に立ち止まらせ、この教会に方向転換させました。
私は、ピリピ教会は、彼にとって最も祝福となった教会であると思っています。
この教会は素晴らしくて、愛する思い出が本当にたくさんあったのです。

ちょっと話が逸れるかもしれませんが、今朝このことを考えていました。
ご存知の通り、聖書には 7 つの教会宛ての 7 つの手紙がありますね。
AD1 世紀のこの時代、手紙の中に、教会に対する叱責が一つもなかったのはピリピの教会です。
事実、この書を読み進めていくと、パウロは愛するピリピの教会に、分裂し得る争いが潜んでいることを知り、この手紙を書いて先制攻撃をしています。
結局彼は、喜びについて書き続けました。まるで止められないかのよう。
パウロには、特にこの教会に関してたくさんの喜びがあって、4 章しかない手紙の中で、喜びと歓喜という言葉が 19 回使っています。

パウロはビーチで日光浴しながら、ピリピ教会の人に宛てて、主にある喜びの手紙を書いていると思いますか？
いいえ。ビーチでのんびりとくつろいではいません。
ローマの囚人として、不当に監禁されている中で書いているのです。
シーザーの前に立って、ほぼ確実に死刑判決が下されるという公判を待ちながら。
彼はそのことを知っていました。
私がこれを指摘するのは、パウロが、直面していた逆境にも拘らず、喜びに満ちていたからです。
踏み込んで言うなら、その逆境が、実は彼の喜びを活気づけたと思います。
逆境が喜びを活気づける。信じますか？

G.Campbell Morgan が見事に言及しています。

「ピリピ書はパウロの素晴らしい賛美の手紙である。彼が同僚のシラスと共に、真夜中の獄中で賛美したのはピリピだった。今、彼はローマで再び投獄されていて、これは、キリストと豊かな関係を持つ人生が、あらゆる苦境に対して、いかに勝利するかを示す輝かしい啓示である。」

「更に、その勝利は、禁欲的な無関心さから得られるのではない。
主の主権の下、逆境のように見える全てのことが、魂には益となり、勝利が与えられるという事実を認めるのだ。」

ですから私は、パウロのあらゆる苦境が彼の喜びを沸き立たせたと思うのです。
自分にたくさんの喜びをもたらしてくれた教会へ、喜びについて書き送ったのも納得できます。

さて今から、この喜びのパレードに水を差しますよ。

問題があるので対処しなければならないのです。

何が問題か。

「喜びのあるクリスチャンは希少で、喜びのないクリスチャンが大半である。」

正直になりましょう。

あなたは、本当に喜んでいるクリスチャンを何人知っていますか？

あなたは喜びのないクリスチャンだと言っているのではありませんよ。

そうなると、説教や「余計なお世話だ」ということが始まってしまうから。私は首を突っ込みません。

私は自分自身のことを話し、家族のことを思います。

私の信仰はどうなのか。私には喜びがあるか。喜びが私の人格になっているか。

私のことを言うならば、「うちのパパは、夫は喜びの人よ？」ああ…（講壇の下に崩れる）

あなたはどうですか？ あなたはそう言ってもらえますか？

「彼は何か違う！ あれは表面的な幸せではない。」

「彼に、彼の周りに起こっていることを見れば、バラバラになっているのに、それにも拘らず、彼は揺るがない喜びを持っている！」「どうすれば、あんな事ができるんだ!? 秘訣は？」

「喜びのあるクリスチャンは希少で、喜びのないクリスチャンが大半」であるべきではない。

これは、あるべき姿ではないのです。

よろしければ、クリスチャンとして本物になれる、つまり、全く正直に、真実に、心から喜ぶクリスチャンになるための3つの実践的な方法をシェアしたいと思います。

① 感謝すること (1-3 節)

パウロは、ピリピのクリスチャンにどんなに感謝しているでしょう。

特に、囚人となっている自分にしてくれたことを。

当時は日に3度の食事なんてありません。

地下牢で手足を鎖につながれていて、食事にありつける唯一の方法は、家族や友人、愛する人たちが持参することでした。

そして彼らはそうした。それをしたのです。

ヤコブが「純粹で汚れのない信仰」と言ったことを思い出します。

彼は信仰について、信仰的であることについて話しました。

信仰とは何か、そして困っている未亡人について、牢獄にいる人たちと、彼らを食べさせることについて。

それが真の信仰だと。真の信仰です。

パウロは正当且つ合法的にではなく、不当に投獄されていました。

だから、ピリピの教会の人たちは奉仕し、祝福し、必要を満たしたのです。

しかも、パウロを助けただけでなく、福音を広めるために経済的にも協力者となりました。

そのことで、パウロの心がどんなに祝福されたか。

彼が福音をどう感じていたか、つまり、あらゆる困難にも拘わらず労力を費やしたということは知っていますね。

これについては、預言アップデートの終わりにもう少し話しましょう。

パウロには、イエス・キリストの福音が全てでした。

喜びのあるクリスチャンが少ないことの主な理由の一つは、感謝するクリスチャンが少ないからではないですか。感謝するクリスチャンは、喜んでいるクリスチャンです。

ルカ 17:11-19 に驚愕する文節があります。

イエスは感謝する人に注目するけど、同時に、感謝しなかった人々にもそうであって、その方がより重要かもしれませぬ。

ここが非常に重要と見なされているのは明らかで、後世の私たちが聞き学ぶために、聖書正典に含まれているほどです。

11 さて、イエスはエルサレムに向かう途中、サマリアとガリラヤの境を通られた。

12 ある村に入ると、ツアラアトに冒された十人の人がイエスを出迎えた。彼らは遠く離れたところに立ち、

13 声を張り上げて、「イエス様、先生、私たちをあわれんでください」と言った。

14 イエスはこれを見て彼らに言われた。「行って、自分のからだを祭司に見せなさい。」

すると彼らは行く途中できよめられた。

15 そのうちの一人は、自分が癒されたことが分かったと、大声で神をほめたたえながら引き返して来て、
木曜日の夜、詩篇 51 篇の学びでこれを話しましたね。

それを見ていない人たちのために言うと、私は「少しペンテコステ派みたいな感じ」と言ったのですが、ダビデはただ神を賛美し、感謝しているのです。

この男も大声で神を賛美し、それだけでなく、

16 イエスの足もとにひれ伏して感謝した。彼はサマリア人であった。

ユダヤ人じゃなくてサマリア人！

17 すると、イエスは言われた。「十人きよめられたのではなかったか。九人はどこにいるのか。」

18 この他国人のほかに、神をあがめるために戻って来た者はいなかったのか。」

19 それからイエスはその人に言われた。「立ち上がって行きなさい。あなたの信仰があなたを救ったのです。」

興味深いですね。私たちの救い主は、感謝した人を心に留める。

神に感謝することはかなり重要だという印象が残りませんか。

昨日、私は娘と、自転車に乗ってビーチでデポーションをしました。

いつだって、ビーチでのデポーションはとても素晴らしい時間です。

自転車に乗って、太陽は輝いて、すごくステキ。

一日中やっていた研究を終えて、「さあ、休憩だ！ やっと一息つける！ 娘と一緒に御言葉に浸るぞ。」

自転車に乗って、全てのことを神に感謝し、賛美を献げました。

小さなことまで全て。というより、特に小さなことに。

そうしたら心に喜びが満ち溢れて、それがもう馬鹿みたいに恥ずかしいくらいで、「パパ、恥ずかしい!!!」

と言われても、もう嬉しくて！

「神は本当に良いお方。神は本当に良いお方！ イエス様、ありがとうございます！」

イエスはそれが聞きたいのです。

「ありがとうございます。」それがたまたまなく好きなんです。

あなたが誰かに、どんなことでも何に対してでも「ありがとう」と言われたらどうですか。

どんなに祝福されるでしょう。

逆の場合、感謝されない時は…ちょっと傷つきますよ。

「ありがとう」すら言わないなんて。

その人に、また何かしてあげられるかは…ハイ。これは肉の思い。

喜びに満たされることの 2 番目は、4 章に入った時にもっと話したいと思います。待ちきれませんが。

② 祈ること (4 節)

これは当たり前のような常套句に聞こえるかもしれませんが。

しかし、祈るクリスチャンは喜びのあるクリスチャンです。

苦難にも拘わらず喜びに溢れている人を見たら、その秘訣を知りたくありませんか。

使徒パウロの喜びについても。

それは、感謝していたことと祈っていたこと。

パウロは祈りの人でした。

私が4章を待ちきれないのは、平安と喜びの直接的な相互関係は祈りによってもたらされるからです。

詩篇 51 篇で学びましたが、イスラエルの甘美な詩篇の著者ダビデが主に泣き叫んだ時、主はダビデの叫びの声に耳を傾けます。

51 篇の終わりにさしかかると、詩は祈りから賛美に変わりました。

「主は私を全ての問題から救い出して下さった。私の“全て”の問題から。」

「多くのトラブルや問題を抱え、敵対することもたくさんある。

しかし、主はそれら全部から私を救い出して下さった。」

でも主は、ダビデの詩が終わりに来た時には、まだ彼を救い出していません。

彼の状況は何も変わっていないのに、何が変わったのか。

それは彼の心。“祈りは祈る人を変える”

そうです。言葉遊びですよ。分かりましたか。

あなたが祈るなら、祈りがあなたを、祈る人を変え、そして喜びがやって来るのです。祈るゆえに。

では最後。これに残りの時間を使います。

子供のミニストーリーで助けが必要なことを話した時にさかのぼるのですが、一つ前置きをさせてもらおうと、私が知っている最も喜びのあるクリスチャンは仕える人です。

主の喜びに向かう秘訣は主に仕えること。

私には、主に忠実に仕えること以上に素晴らしい喜びなどありません。

これが使徒パウロに見られることです。

1 キリスト・イエスのしもべである、パウロとテモテ

パウロは、自分とテモテを“しもべ”として挙げているのに気づきましたか。

キリストのしもべ。他の書簡では常に“キリストの使徒”と書いているのに。

なぜ、ピリピ教会にはキリストの使徒と言わなかったのでしょうか。

なぜ、しもべなのでしょう。

主に仕える以上に味わえる素晴らしい喜びなど、誰にもないからです。

私には、子供ミニストーリーの奉仕者と話をする特権があります。

彼らは殆ど例外なくこう言います。「子供たちを祝福しに行ったら、祝福されたのは私の方だった。」

彼らの喜びといたら！「喜ばずにはいられない！」という感じで。

本当に興味深いことに、子供ミニストーリーで奉仕し始める人はこれにハマるのです。

不躰に聞こえたらすみません。

別の言い方だと、主に仕える喜びに「病みつきになる」「これ以上の幸せはない！」

主に仕えるなら喜びに満たされる。

逆に言うと、主に仕えないなら喜びはなく、大変な不幸です。

なぜなら、主に仕えない時は、自分自身に仕えているから。

これは最も惨めなクリスチャンです。自分に奉仕しているクリスチャン。

これを聞いたことがあるでしょう。

“あなたの目を他人に向けるなら苦しみ、自分自身に向けるなら落ち込む。

しかし、あなたの目を主に向けるなら祝福される。”

馬鹿げているように聞こえますがその通りですよ。これは真実ですから。

私は皆さんを見ると大変なストレスを感じ、皆さんは私にストレスを与えてイライラさせる。

それで、私は自己の内面を見つめて、座禅を組んで瞑想にふけり、「おお、見たくないイヤなものが見える。」
「私は自分が嫌いだ。」「私は邪悪で嘘つきだ。」
あなたもですよ。自分は霊的だなんて思わないで。
「私は哀れで、真に救い主を必要とする罪人だ。」
気が滅入って来ますよ。

いいですか？ はっきり言いますが、自分の目を自己から外して主に向けるのです。

すると、主の喜びがある。

パウロがここで言っているのはそのことです。

彼は自分をしもべだと言っていますが、これは原語のギリシャ語でも興味深い言葉です。

ギリシャ語では *doulos* (ドゥーロス)、自由意思による奴隷という意味。

奴隷になった後に、本人の意思で主人の元に留まることを選んだ奴隷のこと。

主人は彼を町の門の所に連れて行き、自分の所有のしるしとして、彼の耳に穴を開けイヤリングを着けます。

それは永遠のしるしで、人生の残りを、主人を愛する奴隷として仕えたい、という自らの自発的な意思によって
そうするのです。(出エジプト記 21:5 - 6)

それが喜び。喜びであり特権。

パウロはそれを言っているのです。「私はドゥーロス、自由意思によるしもべだ。」

イエスが教えた最も力強い聖句の一つ、**マタイ 25 章 23 節**をお伝えして終わりたいと思います。

主人は彼に言った。

「よくやった。良い忠実なしもべだ。おまえはわずかな物に忠実だったから、多くの物を任せよう。」

(これを聞いて下さい！) 主人の喜びをともに喜んでくれ。」

皆さん、“喜び”と“良い忠実なしもべ”のつながりが分かりますか。

奴隷、しもべ、忠実なしもべ！ そして、その中にある喜び！

私は皆さんに全く包み隠さずに言いますが、私は、かの日に責任を問われます。

その時、良い忠実なしもべだと言われたい。

もし、あなたをしもべになることから遠ざけるなら、私は、あなたを待ち受けている喜びを奪ってしまうことになるのです。

ここで主人は「良い、資格を持つしもべ」とは言っていません。

これが子供ミニストリーへの最大の妨害です。

神は資格のある人を呼んではいません。

「わたしが呼びかける人に資格を与える」と言っています。

私が牧師という特権に与っているとすれば、あなた方の牧師はその完璧な例です。

ミニストリーに関わる人を選ぶなら、私は最も避けるべき人間です。牧師となれば尚更のこと。

私はギリギリで高校を卒業しました。

もし履歴書を書くとなれば1行だけ。名前と生年月日。基本的にそれで全て。

神は知恵ある者を恥じ入らせるために、この世の愚かな者を選び (I コリント 1:27) です。

子供ミニストリーで奉仕する人たちも「私は先生じゃない…」あなたは完璧！ 完璧です！

「本当に…子供に向いているか分からない。」それなら、ここにサインして下さい。完璧です！

「ちょっと怖い気がします。」大丈夫です！

資格のようなものは何も必要ありません。ただ忠実さだけ。忠実であることが全てです。

生産性や影響力ではない。

ただ忠実であることをハッキリと示し、最善を尽くして、後は神に信頼することです。

神の御言葉の権威に基づいて断言します。「あなたは祝福され、喜びに満たされる。」

ダビデは言いました。

満ち足りた喜びがあなたの御前にあり 楽しみがあなたの右にとこしえにあります。(詩篇 16:11)

弟子が、子供たちをイエスから遠ざけようとした時のこと。

イエスがとても近づきやすいので、子供たちが彼を囲んでいたら、弟子たちが「あっちへ行け！ 道で遊んでいる！」みたいなことを言いました。

するとイエスは弟子たちを叱って「やめなさい！」

「子供たちをわたしのところに來させなさい。邪魔してはいけません。

神の国はこのような者たちのものなのです」(マルコ 10:14)

私はイエスの地上での公生涯を思い描く時、いつも子供たちに囲まれている様子が浮かびます。

子供たちはイエスをとても慕っているし、イエスは彼らを怖がらせたりせずに非常にかわいがっているのです。

さて、ここが難しい点なのですが、よく聞いて下さい。ざっくばらんに言います。

子供ミニストリーの奉仕を義務感でやっているなら、して欲しくない。

誰も咎めたくはありません。

が、私には人に罪悪感を与えるという賜物があるんです。しかもとても上手に。

あなたにも与えることができますよ。でもそうしたくない。

ただ、主の慈しみ、喜びの杯を味わい知ってもらいたいのです。

あなたもそうすることができます。約束しますよ。

あなたの唯一の後悔は、もっと早くにそれをしなかったこと。

特に子供ミニストリーで奉仕することには、最高の報酬があるのです。

彼らは子供ですよ。

もし主の來られるのが遅くなるなら、彼らはいつか、あなたが座っている席に座ります。

こんな風に言いたくありませんが、あなたはもうそこに座っていませんよ。

主の再臨が遅れるならね。そうでしょう？

では、これで終わります。ありがとうございました。

祈りましょう。

天のお父様、木曜日の夜の詩篇 51 篇で、ダビデはただ、あなたに泣き叫んで言いました。

「あなたの救いの喜びを私に戻して下さい。」

主よ、今日ここにいる私たちの多くが喜びを失ってしまっています。

主よ、喜びを戻して下さいませんか。

何としてでも“喜びのあるクリスチャン”と数えられ、「なんて喜んでいるんだろう！」と言われたいのです。

感謝します。

イエスの御名によって。アーメン。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにしてはならない。」ヘブル 4:7

メッセージ by JD Farag 牧師

カルバリーチャペルカネオヘへ <http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 Rumi